

安倍元総理の国葬に関し

JJ1SXA/池

衆参両院の議事運営委員会の閉会中審査に岸田文雄首相が出席し、立憲民主党の泉健太代表が質問をするという場面での話、つい最近まで日本の最高指導者だった人物が公衆の面前で真昼間に暗殺されたのに、国の在り方は問題にもされず、取るに足らぬ些細な問題に貴重な時間が徒らに費やされた。

国葬の手続きはどのように踏んだか、経費はいかに算出されたか、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)との関わり合いはどうかを一方が追及し、他方が弁解に終始した、国会審査の焦点は安倍氏から国葬や旧統一教会に完全に転換されてしまった。

究極は、16億円は高い、「近頃はコロナで知り合いの葬式もどんどん簡素化している」との意見が出た…おいおい知り合いの葬式と国葬を、同じレベルで考えると、国会議員の資格ありやと疑う、町内会の役員レベルだろう、これが野党第1党の党首だから恐れ入る。

警備体制についても質問していたが、国賓クラスの誰と誰がどのように来日してどんな警備をするかと、それは、答えられ無いただろう、質問も常識を逸脱するなど言いたい、国会議員だろう。

古くは、全面講和か単独講和で揺れた時代もあったが、結果は左翼の主張する全面講和でなくて良かったは、誰も認めるところだ、岸信介総理(当時)が命の危険も顧みず進めた、日米安保も、左翼が大反対だったが、後世では評価されることだった。

安倍元総理の所為で、どれだけ、左翼運動が後退したことか、恨み骨髄だろう、安倍政治を許さないとどれだけ叫んでも、どれだけ反対しても重要法案は成立した。

自分たちの主張とは違う方向だから業績として評価できない、だから国葬などもっての他との意見だろうが、諸外国のお偉方が揃って偉大な政治家と評価するが、これも気にいらないということのようだが、そういう貴方たちは何様だ、日本国民としての矜持を持っていない、だから、非常識の事が平気でできる、左翼が大反対する問題は、ことごとく日本の国益につながっているのを歴史が証明している。

一国の総理大臣を「…ぶった斬ってやる…」と、大多数の人間の前で叫んでも罪に問われない、日本は本当に良い国だ？阿呆らし。

このように国葬の根拠や金額ばかりを問題にする国会、民主主義国の日本で白昼堂々元首相が暗殺されたことが問題だろう、死者へ哀悼の意を尽くすこともできない世論を見ると、日本人が劣化したのかとさえ感じるのは、私だけでは無いと思うが如何？

昭和35年、日比谷公会堂で右翼少年に刺殺された社会党委員長・浅沼稻次郎氏に、時の首相・池田勇人氏が、国会で追悼演説をしている、演説下手だった池田氏だが、その調子は人の心に迫る哀調を帯びていた、だから今でも語り継がれている、与野党の対立を超えた人間的フェアプレーの精神が残っていた時代だったのか、今はそれが無いのが残念だ、武士道精神は何処へ？

(2022年9月記)